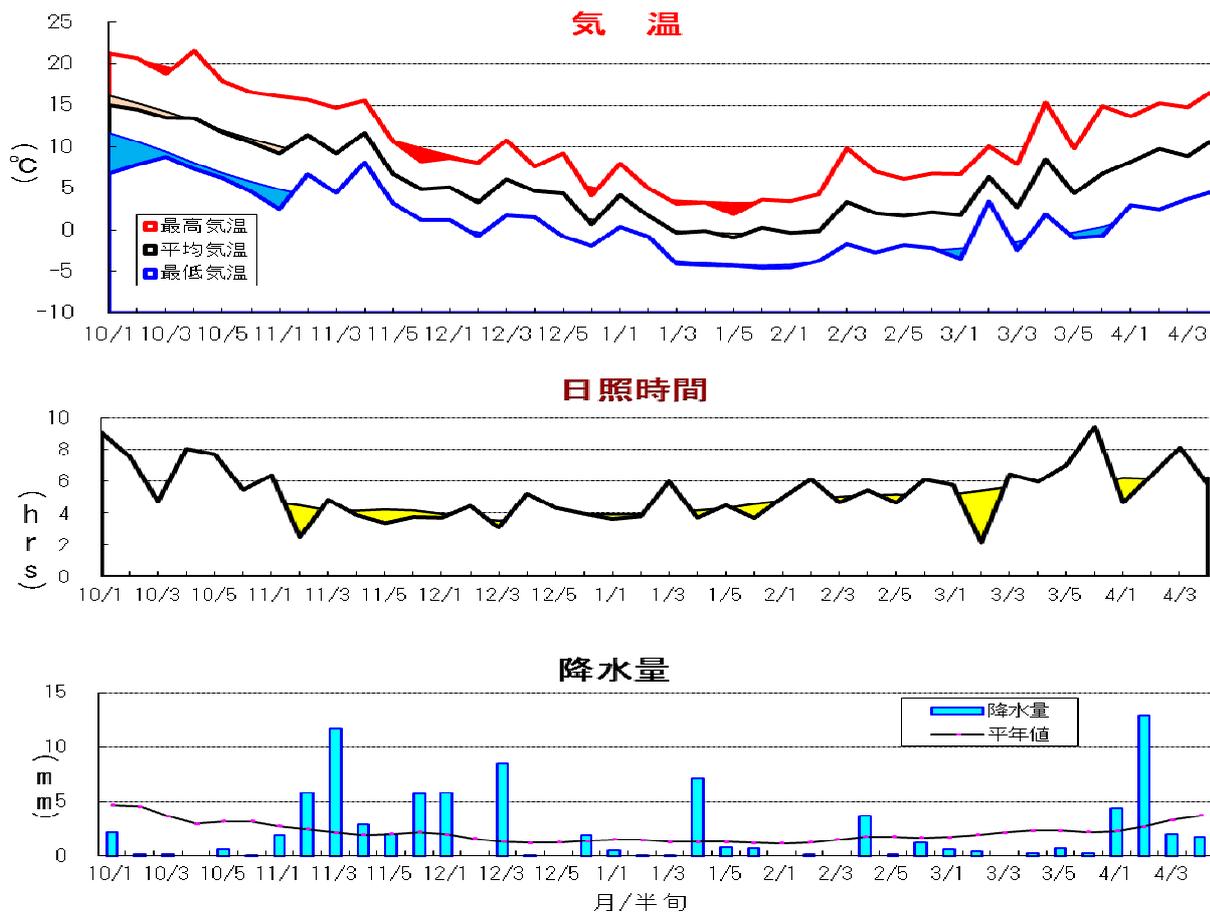


～春先も気温高く、生育ステージ大きく早まる！！～

1 天候の経過 (古川アメダス)



- ・ 気温は、依然として高めに経過している。
- ・ 最高最低気温とも高めで、特に3月は高めであった。
- ・ 日照時間も多く特に3月は多照となった。
- ・ 降水量は、少雨傾向で2月は平年の60%, 3月は17%であった。
- ・ 4月も気温日照は同様の傾向が続き、降水量は4月7日にまとまった降雨があり、4月中旬までの雨量は多くなった。

月	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (h)	降水量 (mm)
2月	1.5	6.3	-2.8	153.4	25.5
平年差	0.9	1.7	0.6	13.9	▲ 17.0
前年差	0.1	1.3	▲ 0.6	▲ 8.0	3.5
3月	5.2	11.0	-0.4	192.9	11.5
平年差	1.6	2.5	0.5	20.3	▲ 54.5
前年差	▲ 0.2	0.4	▲ 1.0	10.5	▲ 143.0
4月中旬まで	9.0	14.6	3.1	95.6	96.5
平年差	1.1	1.1	0.6	4.1	54.9
前年差	0.6	1.6	▲ 1.1	49.4	1.0

2 平成28年産の麦類採種圃巡回時（4/12～13）の生育概況

地区名	麦踏回数(回)	追肥日(月/日)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	幼穂長(mm)	出穂見込(月)	特記事項
石巻	2	12/2～3					一部砕土率悪いが順調
石巻	2	1/11					白鳥食害あるが順調
登米	1	3/16	30.8	988	4.7	5月8日	茎数多い
登米	2	2/12, 3/9	27.3	908	4.0	5月上旬	白鳥害あるが順調
涌谷	1	3/12			5.0	5月上旬	分けつ多く生育促進
南郷	2	3/21				5月上旬	用水遮断
古川	1	3/17		300～450	11.0	5月3日	斜めに5mおきに弾丸暗渠施工
古川	2		39.1	1129	8.0	5月16日	鴨や白鳥の食害あり
大河原	3	2/6	39.2	457	26.3	4月下旬	連作障害回避策の努力
大河原	3	2/6, 2/16	37.8	476	29.0	4月21日頃	ヤムグと材ノグリ目立つ

- ・草丈は、依然平年・前年よりかなり長く、30cm～40cmに達している。
- ・茎数は、昨年からの旺盛な生育を受けて1,000本を越えている圃場もあり、生育ステージが進んでいるため調査時点で最高茎数より少なくなっている圃場も見られた。
- ・雪が少なかったため、麦踏が順調にできた圃場が多く、3回実施したところもあった。
- ・一方雪が少なかったため、冬季の白鳥害を受けた圃場が多かったが、回復しており実害はほとんどないと思われた。
- ・ほとんどの圃場で4月下旬に減数分裂期に達すると思われ、4月下旬～5月上旬には出穂期を迎えると思われる。



3 今後の管理

(1) 追肥

追肥の種類		減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
期待される効果		一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	シュンライ ミノリムギ	4月下旬～5月上旬	
10a当たり 施用量		窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	
小 麦	時期	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※ ゆきからは2倍

- ・ほとんどの圃場で減数分裂期に達しており、幼穂長を確認しながら適期に実施する。
- ・追肥は、大麦小麦で異なるので上記基準を参考にしながら葉色を見ながら量を加減する

(2) 「赤かび病」の予報（病虫害防除所）

病虫害名	発生時期	発生量	予報の根拠
オオムギ 赤かび病	早い	平年並	・大麦の生育(4月11日現在)は平年より早く、向こう1か月の平均気温は高い予報となっていることから、大麦の出穂期及び開花期は平年より早いと推測される。(－/) ・本病の発生には、開花期前後に降雨が続くことが好適である。大麦の開花期は4月末～5月上旬頃であり、向こう3か月の予報では5月の降水量はほぼ平年並の予報となっている。(/ ±)
コムギ 赤かび病	早い	平年並	・小麦の生育(4月11日現在)は平年より早く、向こう1か月の平均気温は高い予報となっていることから、小麦の出穂期及び開花期は平年より早いと推測される。(－/) ・本病の発生には、開花期前後に降雨が続くことが好適である。小麦の開花期は5月中旬頃であり、向こう3か月の予報では5月の降水量はほぼ平年並の予報となっている。(/ ±)